

がん患者 音楽で安らぎ

中央区「大阪国際センター」でクラシックコンサート

3月4日(朝) 12時

4オーケストラ 月替わり公演

3月にオープンした大阪市中央区の「大阪国際がんセンター」で11日、在阪4オーケストラが毎回交代で登場するクラシック音楽会の第1回コンサートが開かれた。入院・通院しているがん患者のストレスを音楽で癒やす取り組み。大阪交響楽団▽大阪フィルハーモニー交響楽団▽関西フィルハーモニー管弦楽団▽日本センチュリー交響楽団一の演奏家が、ほぼ月替わりで公演する。

初回のこの日は、日本センチュリー交響楽団からバイオリン、ピオラ、チェロの演奏家計4人が登場した。患者ら約200人は、モーツァルトやベートーベンの名曲のほか、アニメ映画「となりのトトロ」のテーマなど約1時間の演奏を楽しんだ。重音「夕焼け小焼け」では、患者ら全員で歌詞を口ずさみ、歌声が会場にこだました。

センターの松浦成昭総長は



点滴をした入院患者も耳を傾けたクラシック音楽会
—大阪市中央区の大阪国際がんセンターで

「患者さんの視点を大切に、患者さんがリラックスできる医療を提供していきたい」と話した。

次回は25日午後2時から、関西フィルハーモニー管弦楽

団が登場。鑑賞するには、外に設置した応募箱に必要事項を記入して申し込む。申し込み多数の場合は抽選。問い合わせは同センター(06・6945・1181)。(石川貴教)